

第5章 大綱・基本方針

第1節 大綱

新町支石墓群は弥生時代早期の支石墓を中心とした墳墓群である。遺跡の保存状態は良好で、考古学ならびに形質人類学的にも学術的価値が高いといえる。特に24号墓から出土した人骨には大陸系の武器である柳葉形磨製石鏃が突き刺さっており、稲作の開始に伴う土地争い・水争いを原因とした日本最古の戦死者の墓と考えられている。また、9号墓から出土した人骨は縄文系の特徴をもつ成人男性であり、支石墓＝渡来人の墓という通説を覆し、墓群を造営した集団の出自を考察する上で貴重な資料となった。

この支石墓群の周辺には今もなお、弥生時代を彷彿とさせる風景が広がる。前面には大陸へとつながる玄界灘が、背後には糸島市のランドマークでもある可也山がそびえている。支石墓群をこの景観の中で将来にわたって保存し伝えることが必要である。

加えて、次世代を担う子ども達や市民の学びの場とし、郷土愛を醸成する「いとしま学」実践の場として活かす。また、市民の交流の場や糸島市の観光資源としてまちづくりに活かすために、整備を進める。支石墓群の保存活用を推進するために運営方法を検討し、体制等を整える必要がある。

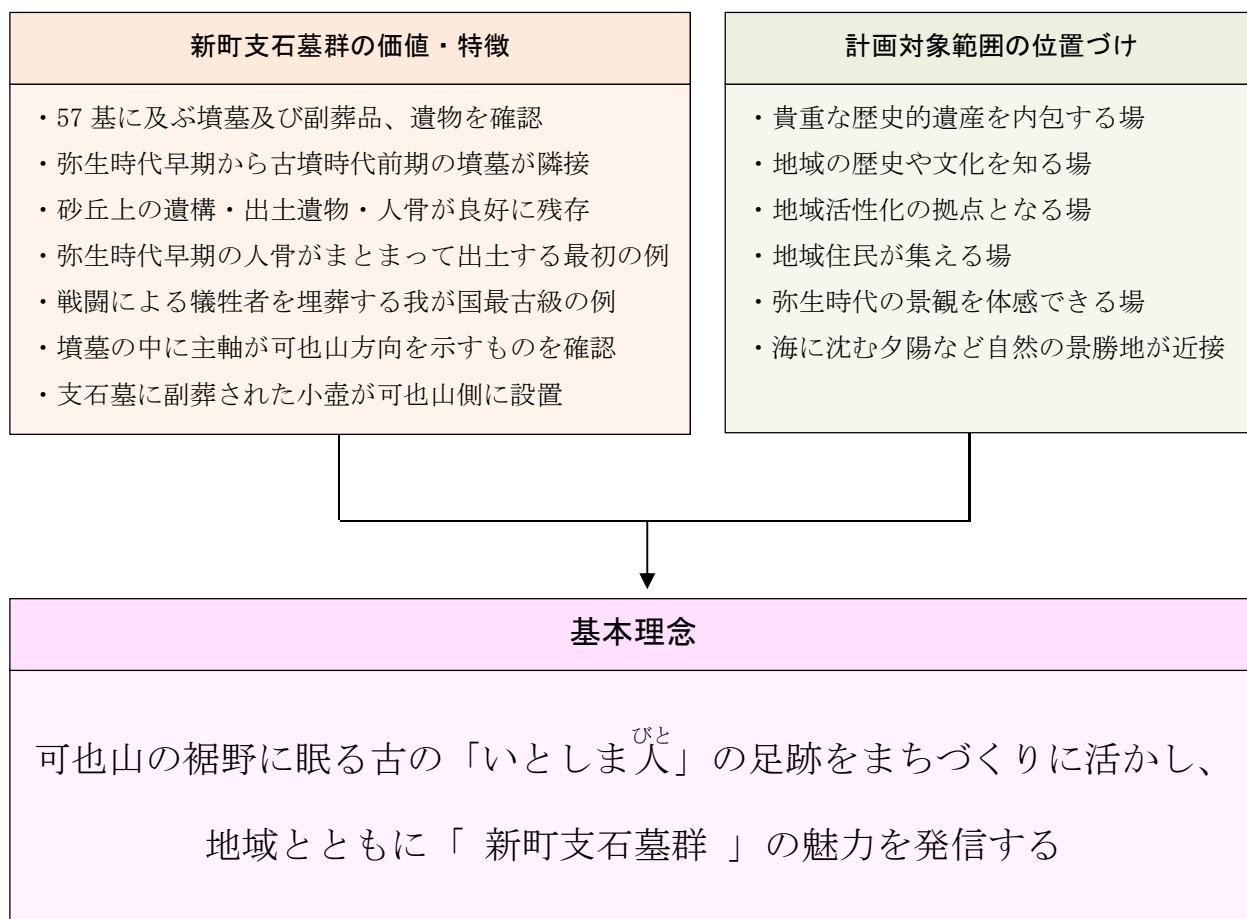


図 5-1 基本理念

第2節 基本方針

新町支石墓群保存活用の基本理念『可也山の裾野に眠る古の「いとしま^{びと}人」の足跡をまちづくりに活かし、地域とともに「新町支石墓群」の魅力を発信する』を実践するために、価値や現状・課題などを踏まえ以下の基本方針を定める。

【保存・管理の基本方針】

「弥生時代から継承されてきた遺跡、景観を守る」

弥生時代から現在に至るまで継承されてきた新町支石墓群と周辺の風景を守るため、適切な保存方法を講じ、地域と連携し適切な管理を行うことで恒久的に守り続ける。

【活用の基本方針】

「遺跡の価値を見だし、地域の誇り、愛着を醸成し、遺跡を日常の暮らしや地域の活性化に活かす」

新町支石墓群の価値を見だし、市民や地域住民をはじめ遺跡に関わるすべての人々にわかりやすく伝えることで、地域の誇りと愛着を醸成する「いとしま学」実践の場とする。これに加え、観光、地域振興や市民憩いの場等としても活かし、また、情報発信を積極的に行い、支石墓を有する他の自治体や地域との交流も図る。

【整備の基本方針】

「遺跡の保存を前提に、様々な活用に対応できる環境を整える」

上記の保存・管理、活用の方針を実践するため、地域住民に親しまれ、見学者も訪れやすい新町支石墓群の実現に向けた整備を目指す。支石墓群の価値を地域住民と共有するとともに、様々な活用を想定に入れる。

【運営・体制の基本方針】

「地域と一体となって遺跡を保存活用していく仕組み、人材を育てる」

これら保存・管理と活用の取り組みは行政のみでは限界があるため、地域と連携し一緒に考え、共に行動することで地域に根付いた仕組みをつくり、将来に継承していくための人材を育てる。